

2026-1-18

享月 日 楽新 局

宮司目線の「鎌倉案内」

鎌倉市の鶴岡八幡宮の吉田茂穂宮司(83)が、地元を歩いて選んだ印象に残る13の風景や、同宮の年中祭祀を紹介する「鶴岡八幡宮宮司の鎌倉案内」(小学館)をこのほど出版した。終戦直後に参拝に訪れた連合国軍最高司令官マッカーサーの秘話も収録している。「八幡宮の背後の山に禅宗の寺院があり、神仏が背中あわせの町で積み重なった歴史と文化を伝えたい」と話している。

13の風景は、海まで一通などを紹介した。紅葉直線の参道と鳥居が見え、の名所の獅子舞の谷、現る同宮の大石段上や、三存する国内最古の築港遺方を丘陵で囲まれた鎌倉跡・和賀江嶋なども取り、山の稜線を削った切上げた。



鶴岡八幡宮の大石段を前に本を手にする吉田宮司

鶴岡八幡宮の吉田さん出版 印象的な風景や年中祭祀紹介



吉田さんは兵庫県生まれ。国学院大を卒業し1966年、同宮へ。97年に宮司になった。「鎌倉案内」出版のきっかけは、2024年4月に同宮の情報誌「悠久」を再々刊したことだった。同誌は1948年に神道の総合雑誌として発刊されるも、休刊。80年に再刊したが、2022年に休刊していた。

吉田さんは、多くの人に神道を理解してもらおうと共に鎌倉の魅力も伝えたいと、デザインと内容を一新しフリーペーパーとして再々刊。この1、4号に掲載した万葉学者の上野誠さん、直木賞作家の安部龍太郎さんと吉田さんの鼎談すべてを収録し、書籍として出版した。

同宮が保管する記録には、1945(昭和20)年9月2日にマッカーサー

終戦直後に参拝のマッカーサー秘話も



吉田宮司が「心に残る風景」として選んだ風景の一つ、和賀江嶋=いずれも鎌倉市

1が前触れなく幕僚12人を連れ参拝した様子が残る。鼎談では吉田さんがこの逸話を披露し、2人を驚かせた。マッカーサーが訪れた9月2日は、午前中に東京湾上の米戦艦ミズリ号の甲板で、日本の降伏文書の調印式が行われた歴史的な日だ。

その午後、マッカーサーは同宮をお参りした。当時の宮司に「40年前にも来たことがある。その時と少しも変わっていない」と懐かしそうに伝え、「今日は急ぐから。また来ます」と話したという。破魔矢を13本買って将校一人ひとりに手渡し、自らも一本持ち帰ったと伝わる。戦前の新婚旅行も含

(村上潤治)